

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	第2回山口県央連携都市圏域ビジョン懇談会
開催日時	平成29年1月24日（火曜日）14:00～15:30
開催場所	ホテルかめ福 2階 紅梅
公開・部分公開の区分	公開
出席者	河野康志委員 ほか13名
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回ビジョン懇談会における委員意見 (2) 山口県央連携都市圏域ビジョン（案） 4 意見交換 5 その他 6 閉会
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ（山口県央連携都市圏域ビジョン懇談会会長 河野康志） 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回ビジョン懇談会における委員意見 (2) 山口県央連携都市圏域ビジョン（案） 4 意見交換 <p>【会長】</p> <p>ただいま事務局から一括で説明をいただいた中で、圏域のリーディングプロジェクトとして、ビジョン計画の最終年度となる2021年に博覧会を開催するという提案を、お示しさせていただきましたが、博覧会の開催を含めて、圏域のリーディングプロジェクトとして何をやっていくべきなのか、これが本日の協議の一番のポイントになると思っています。一方、山口県央連携都市圏域ビジョン案としては、事務局からの説明のとおり、こうした計画になっていくものと考えています。</p> <p>それでは次第4の意見交換に入らせていただきます。博覧会の開催を含めて、域内のリーディングプロジェクトに関する内容を中心に、委員の皆様からご意見を賜りたいと存じます。</p> <p>【A委員】</p> <p>旅と文化の博覧会、どういうものか説明がありましたが、その中で、みんなでおもてなし部門、ここが一番私大切な部分ではないかと思っています。私たちも、おもてなしが大切だということで取組をしておりますが、何でおもてなしを感じるかとお客さんに聞いたところ、まずは笑顔、二番目が心遣い、それから三番目</p>

が親切です。おもてなし部門の中に、心のおもてなし、ソフト部門をぜひ追加していただいて、統一的な取組をして、お客さんを迎える受け入れ体制の整備に結びつけていったらどうだろうかと思っています。以上です。

【会長】

博覧会の開催についてはいかがですか。

【委員A】

今日聞いたばかりということで、コメントしにくいですが、できればぜひ博覧会を開催したら良いのではないかという思いは持っております。

【委員B】

このプロジェクト、旅と文化の博覧会2021、大変結構なことだと思っています。名称は別にして、圏域で事業をしていくことは一番求められていることだと思いますが、まず民間人として行政の方々をお願いしたいのは、世界第4位の基幹産業である観光をもっと前面に出して、まちづくりの基軸とするということ、地域のコンセンサスを構築していただきたいと思っています。特に文化財観光は、観光業者だけのものではなく、地域全体の宝物であるということを周知することが一番必要であると思っています。今までの観光は、ただ物を見るだけという観光が多かったように思いますが、今後は見学、見て、学ぶ観光ということが一番必要な気がします。ご承知のように、先般新聞に出ておりましたが、2020年に観光客を4,000万人にするということですが、その大半が中国、韓国、台湾等の東アジアの方々が多いわけですが、それ以外のアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアなどの方々を、日本に招き入れるにはどうするかということが書いてありました。一般的に遠方から来る観光客は長く滞在し、より多くのお金を落とす傾向があると書いてありました。そうした中で、いま一番増えているのは広島だそうです。原爆ドーム、宮島ということですので、この県央からすれば隣になります。先ほどの広域連携もごさいますので、そこらとのタイアップというようなことも必要ではないかなと思っています。

それから、ボランティアの方や我々が圏域の本当の歴史をよく知らないといけないと、つくづく思っています。先般、山口大学の博士課程に留学している学生たちが5名ほど、私の家に来ました。その中で彼らが非常に喜び、びっくりしていたのは、仏壇に仏様と神棚があるということです。日本語がすごく流暢な子が、他の外国人にも説明してくれましたが、非常に感動していました。外国人から見ると、神が2つあるのはどういうことなのか、ということですが、私どもにとっては、ごく当たり前のことです。そういうことを体験させてあげることが、より観光振興に繋がるということに改めて感じた次第です。以上です。

【委員C】

観光の交流人口については、博覧会を中心にとすると、プランが華々しく進めることができるような感じがします。しかし、本来の県央連携都市圏域ビジョンというのは、交流人口を増やすためのプロジェクトなのではないでしょうか。そこをもう一度、

見ていただかないと、観光促進の会議になってしまわないかなということ。資料1の中の3番目、交流人口の増加と定住人口の増加に向けた取組は、別々に取り組んだ方が良いのではないかという意見に対するお答えが、少し意味が分からないです。

それから、資料2の1ページ目の1番に策定の趣旨が書いてあります。その上から3行目、「広域的な圏域において交流人口、産業、雇用の創出を」と書いてある交流人口は、外から入ってくる方の交流人口ではなく、域内の方々の交流人口を指しているのではないのでしょうか。

今回新しい圏域ができるということで、圏域内を元気づけて、人口を減らさないようにしたい、そのために色々取り組んでいくということが大事ではないか。そういう一体感の醸成をするには、博覧会もいいかもしれません。しかしもっとやることがあるのではないのでしょうか。特に若い女性がものすごく減ってしまうというような状況にあります。そこをまず食い止めなければ、博覧会が成功しても人口は減っていくのではないかと危惧しています。例えば、昨年若い女性を雇用した場合は、企業に補助金を出すとか、地域に就職してもらうために官民あげて女性の方々を支援する。保育園の問題はどうするのか。警察と消防、防災などについては、パッといくかもしれません。しかし、人口を増やすというのでは、どういう取組をすれば良いのか検討していただかなければ、この取組をやっても人口増にはつながらないのではないかと危惧しています。

それから交流人口についてはもちろん大事ですが、例えば自転車で走っている外国人をあちこちで見かけます。非常に自転車好きな方も多いし、こういったものを一つのきっかけに、色んなものが展開できるのではないか。また、こうした取組を検討する委員の中には、必ず外国人を入れた方が良いのではないかと思います。

【会長】

ご意見ありがとうございます。今の交流人口と、定住人口との関わりについて、事務局いかがですか。

【事務局】

定住人口というアプローチで入っていくのか、交流人口から入っていくのか、宇部市を含めた事務局で議論する中で、まずは圏域の外から経済の活力を取り入れて、パイを増やすというところから始めようではないか、という議論になったという経緯もございます。限られたパイの中でどこまで雇用を生み続けられるのか、雇用を生むからパイも膨らむということもあろうかと思いますが、まず着手すべきは交流人口を広げていこう、倍増していこうではないかというところで、このビジョンの25ページ、ちょうどKGIとして、2040年に55.1万人以上確保するために、まずは圏域の外から経済活力を取り込む交流人口倍増をKPI①と書いています。ただし、PRですとか、そうした部分だけで交流人口を増やすことはできませんので、その横にKPI②として、交流人口を支えるような、

例えば居酒屋、農家レストランなど様々な、交流産業を支えていくということもありますので、別々のようでもあり、交流人口を支えるような部分でもあり、こうした雇用創出をしっかりとしていこうではないかと。その中で、若い女性や、若者の雇用、起業支援もしっかりしていこうではないかという思いも、このKPI②の中に入っております。そして、KPI③ということで、圏域内の若者、女性だけで雇用を生み出し続けるのではなくして、外からもしっかりと人材を確保していく。あるいは、流出させないという取組として、定住プロモーションなども合わせて取り組むことで、雇用をさらに支えることができるのではないかと。この3つの柱が別々のような、あるいは一体のような形で、政策として進んでいくことができるという思いで、今回こういったビジョンを案として示させていただいたところです。

【会長】

いずれにしても、交流人口という言葉だけが出ると変な方向にいつてもいけませんので常に交流人口、定住人口、両方捉えた計画であるということ意識して進めるべきと、今のC委員のご意見で感じた次第です。ありがとうございました。

【委員D】

まずは博覧会を目標とする形で読んだときに、自分がやらなくてはいけないこと、まずこれでパッと浮かんだのが、自分の地域、市をもう一度掘り起こしてみること。もう一つは今、自分が見ているものではなく、他の人に自分の地域を見てもらうこと。山口市には地域おこし協力隊があります。うちの地域にも協力隊が2名いますが、外からの目は、自分たちが気づかないことを発見してくれます。博覧会に向けて彼らの力を借りてもう一度、自分の地域を掘り起こして、見てみようと思います。それに向けて4年間進んでいこう。要は、自分の地域、自分の市の良いところを引っ張り出すことによって、自分の地域を守ってくれる人間や、若い世代を育てることによって、人口の流出を避ける方向でいけばいいのではないかと、私は理解しました。

【委員E】

博覧会を目標にすることは一つの目標設定としては地域、圏域が方向性一つになるというところで、非常に良いのではないかと思います。先ほどC委員のご意見にもありました、定住人口を増やすための交流人口の役割、その辺りをもっとうまく説明しないと博覧会だけが一人歩きしてしまうというところが一点あります。

もう一点、これから4年間、仮にこれが進められるとして、コンテンツを磨いていくときに、既存のコンテンツを磨くところもありますし、我々の気づかない他人の目線でのコンテンツというのはものすごく時間がかかるかなということを危惧しています。若い人たちの目線、あるいは外部目線をどうやっていくかというのは、我々自身もそうですし、皆様方とも相談しながらやっていかないといけな

いという気がします。非常にとっつきやすいとは思いますが、コンテンツを磨くというところに難しいところがあるという気はしています。

【委員F】

基本的なものは、人口減少、少子高齢化、これの歯止めをどうするかということだと思いますですが、観光に特化して一見派手なようで面白みがあるとは思いますが、どういう形で定住人口を増やしていくのが難しいところだと思います。博覧会も一つの方法ではあると思いますが、これが全てではないと思っています。交流人口を増やすことによって、定住人口を増やすことが目的ですので、博覧会だけでいいのか。一人歩きする可能性もあります。一番は、産業です。あるいは地場産業を生かしたものをすることによって、仕事をつくるということ。それによって定住人口を増やしていく。その中に観光が入る。こういう形にもっていかないと、一見派手な観光に目が行きがちだと思いますが、本当に根付いた仕事をそれぞれの地域がもって定住人口を増やしていく。雇用創出をする。これが必要ではないかなと思います。以上です。

【委員G】

全国各地で人口減少に悩んでいてその手段を色々模索しているという実態の中で、まずは出来ることからやろうということで、たどり着いたのが観光。その具体策として旅と文化の博覧会2021ということをやろうとなったと思います。観光でいいますと、一番は情報発信、情報の発信力だと思います。それから、資料に、一か所での大規模・仮設会場整備に博覧会はNOだとあります。各地域内の資源を巡る博覧会にすると書いてあります。これはこれで結構だと思いますが、現状は、その方向で進め、また良い時期に考え直すことも必要と思います。9月から12月には、ディスティネーションキャンペーンもあります。これは非常に大きなキャンペーンでJR各社が総力を挙げて山口県にお客さんを紹介しますよということですが、ディスティネーションですから、目的地が本気でやるならJRさんはPRをしましょう、お客さんを連れてきましょうということ。受け地としてどういう受け入れをするのかという姿勢をみせなければいけません。

また、もう一つは、県を挙げて、幕末ISHIN祭と言って、色んなキャンペーンを打っております。その幕末ISHIN祭、祭りと書いてあります。色んなところで申しておりますが、書いてあるとおり、各地域で色んなことをやってくださいと。それを全部まとめて、山口県として幕末ISHIN祭としております。また、維新150年ということをやろうということになっています。

しかし、各地域からなかなか目玉になるものが出てきません。萩市場合はご承知のとおり、萩・明倫学舎というプロジェクトを進めております。あまり話題が出てこないですけど、実は大きなプロジェクトであり、内容もさることながら具体策の姿勢を見せているということだと思います。そういったものが各地域から出てくればいいと考えています。先程お話がありましたが、元乃隅稻成神社なんか一昨年まで全く誰も知らないものが、今はフィーバーしていますし、萩でも猫

寺雲林寺も全く誰も知らないところがものすごく受けています。そういったものを本当に掘り起こして、言われるように磨き上げていって、我が地域はこれで行く。当面は、ディスティネーション、受け地、目的地として我々はこれだ、こういったものを出していく。次は、維新150年に向けていく。さらにオリンピックを挟んで2021年、次々に手を打っていく、観光は切れ目なしにやっていく。この7地域が奮い立ってやるとなれば、結果的には全域を巻き込んでやるということになるだろうと考えています。そういった意味では、分かりやすい、検証のしやすい手法だろうと思います。今回色々資料を作っていただいて、着地をどこに持っていくのかということであれば、こういうのも良いと思います。

この取組をとおして、最終目的の人口がこれだけ増えましたということだと思います。他に何かあれば良いのですが、まず一つ出来ることからやろうと。広島、福岡に挟まれた山口県が、両県に勝てるものは、ふぐ、維新、8人の総理などもあるかと思っています。そういったことを博覧会で表現をしていく。しかしそこまで待たずとも、DC、そして幕末ISHIN祭、それを過ぎて、また考えたらいいと思いますが、当面はこういった形でやっていくというのであれば、それはそれでいいと考えます。

それからMICEのことが色々出ていますが、例えばプーチン大統領が長門に来ました。大きな国際会議の誘致は、ものすごい経済効果になる。また、この地域にはきららドームがあるわけですから、こういったものも使ってやるのも一つの方法。観光については切り口がたくさんあります。裾野の広いところがあります。申し上げればきりが無いということではありますが、目的地、着地として、ディスティネーションとして、姿勢を見せる、姿を見せる、ぜひここに居られる方、みんな地域のリーダーの方ばかりですから、ぜひそれを持ち帰っていただいて、当面DC、そして維新150年、ぜひ盛り上げていただきたいと思います。以上です。

【委員H】

今回の連携中枢都市圏の狙いは定住人口を減らさないようにすることが大目的だということをもう一回確認できて良かったと思います。その中でこの県央域の愛称が欲しいと言ったのも、ほとんど各都市の名前を聞いても知られていない、目立っていないので、情報をしっかり出さなくてはいけない。今回、旅と文化の博覧会という形で開催されることは全国に向けて、あるいは世界に向けて、この県央の一体感を出せるいいチャンスだと思います。先ほどもありましたが、ロシアのプーチン大統領が来られて、長門は一気に有名になりましたが、この県央域ではないわけですから、県央域が頑張っていることを出す機会が要るわけです。萩は維新含めて、この前の花燃ゆでも大変有名にはなっていますが、防府も花燃ゆで箱物を作ったり、一所懸命やりましたが、二番煎じのような形でほとんど結果が出せなかったという反省も踏まえ、今回はモノをつくるのではなくて、おもてなしを醸成していく機会だということで、まずは交流人口から始まって、色んな

意味での各都市の存在感を示していく。先ほど、官民一体の実行委員会の立ち上げの話がありました。この7市町の連携は十分にできていない状況です。それを醸成していく一番いい機会だと思います。スタート地点ですので、5年目の目標としてはこれくらいとして、まずは世界に向けてイベント発信していく。その中で、来ていただく人に対して、各都市がおもてなしの心を発揮できるような人材を育成して、都市の魅力を発信していく。それが例えば企業誘致につながっていくし、定住につながりますから、5年目の反省と総括は、次の5年、次への定住へ向けての色々な施策展開をしていくという考え方にしていけないと、これだけの都市が皆で話し合うと最終的にはどこが中心になるのかといった話になってしまいそうなので、先ほど言われた反省点を踏まえながら、ぜひ旅と文化の博覧会を開きながら未来に向けた事業を入れて、子どもたちが将来成長したときに、こういうものを体験したんだという誇りを持って、またここに戻って来られるような子どもたちを育成するプログラムとしてやっていけたら良いのではないかと感じました。以上です。

【委員 I】

2点ほど気づきです。まず博覧会ですが、観光コンテンツというとすぐに反応してしまいます。コンテンツとくると、当然コンテクストです。これまでの様々な事業や観光の施策の失敗は、コンテンツ優先主義です。これは明確です。今からはコンテクスト志向、要するに前後関係を明確にした上で、コンテンツを積み上げていくということなので、博覧会のコンテクストは何なのかと。どのように分析されているのかということが知りたいと思いました。

それから委員の方のお話を今まで聞いた中で、この博覧会を行うことにおけるサステナビリティについて、どういうところを考えて、比べるのかということです。それから観光の話が重心に出てきていますが、この観光の捉えかたが従来の観光というコンテンツを使っただけの地域振興なのか、それとも現在注目されている観光まちづくりなのか、ここを明確にさせていただくと大変幸せです。もう一つは、この協議会の目的というのは、人口減少というのが一番大前提になっていると思いますが、やはりコンテクストの問題、なぜ人口が増えないのかといったときに、今の若者はスマートフォンとコンビニがあったら生きていけます。こういう若者たちに、従来の生き方や働き方をコンテクストにもって様々なコンテンツを整備しても、当然行き違いが出てきます。根底にあるのは若い人たちの生きること、働くことということをもう一度考え直す。これが人材育成のスタートだと思います。産業人としての人材育成の前に、やはり人間としてどのように生きていくのか。例えば恋愛をしなくていい、結婚をしなくていいという価値観を持っている若い人たちがたくさんいるのが現状。そういう人たちが20代30代になった時に、どんどん子どもを産んで人口を増やしましょうと言っても、なかなか非現実的な話になると思います。そういう若者の根本的な人材育成が必要になってくるのではないかと考えています。以上です。

【委員J】

最終的にはこのビジョン懇談会も旅と文化の博覧会に落ち着くような感じなので、皆さんの貴重な意見を聞いた中で、確かに一番取り組みやすいのが観光です。観光は今まで各自治体、市の方がいろいろやってきているが、なかなか伸びてない。これを広域でやって、検証する必要があるのではないかと考えています。これが次にやるステップだと思います。

それから、人口は県外に流出させない、歯止めをかけることが重要。学校を卒業した方が外に出ていくことを止めるのが一番だろうと思いますが、増やすことはなかなか難しい。現状維持が大事と思う。それには働く場所を作る。若者が技量をもって、仕事をしたいと思っても、働く場がないから県外に出ていきます。例えば専門学校で色んな勉強をする。でも自分の思った会社がないから都会へ出て行ってしまう。そういう中で、観光が一番取り組みやすいということだと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。その他、いかがですか。

【委員K】

人口減というのは難しい問題で、どこの市町村、あるいは県にしても、日本中が困っている問題だと思っています。ここ20～30年前の姿をもう一回見直してみると、美祢地域においては、大きい企業に勤めながら兼業農家を維持していくという形で大多数が成り立っていた。そこで、ある程度安定した人口が保たれていた。そうしたことから考えると、やはり今から先も、ある程度の産業を興していけないと、定住人口の安定は図ることができないと思っています。博覧会についても、秋芳洞もあるので、魅力を持っていますが、一定の期間で成功に導くということは、可能と思いますが、問題はそうしたものをやる中でそこに定住している若者のものの考え方が重要。そこにはっきりしたものが出ていかないと、一定の期間だけの成功に終わって、後につながっていないと思います。秋芳洞を例にとってみても、昭和50年前後には200万人の方が来ていましたが、現状は40～50万人しか来ていない。4分の1のお客さんしか来てもらえないということは、お迎えする私たちのあり方に問題があり、魅力がなくなり、お客さんがどんどん減っていったと思っています。これから先、何かをやろうとしたときに小学校、中学校の学校教育の中まで浸透させて地域の姿勢というものを理解させていけるものを築き上げていくべきだと思います。

【委員E】

7市町の共通テーマとして、観光はすごく理解できますが、資料2の30ページから48ページまで取組テーマが挙がっていますが、対象となる連携市町が全市町ということになっているということは、個々の市町でやるという認識でよろしいのか。

【事務局】

30ページ以降に事業を色々載せております。確かに各市町の総合戦略の事業をこちらに挙げさせていただいているということもあります。それぞれの自治体というよりは、圏域全体として取り組めるようなものもありますし、ある程度、個別それぞれの自治体がやることによって相乗的に全体にも影響が及ぶようなものも入っていると考えています。

【委員L】

博覧会については、1か所大規模ではない博覧会であること、各地資源を巡る博覧会ということ。言葉を聞いて何となく分かるような気もしますが、少しわからないという気もしています。それから、2021年の博覧会ということですので、当然視野には入っていると思いますが、2020年がオリンピックということで、過去に津和野が観光で盛り上がりつつあった一つの経緯の中で、ディスカバージャパンがありました。ディスカバージャパンというのは大阪万博のポスト対策で、2021年の博覧会を、旅と文化の博覧会と位置づけるのであれば、当然ポストオリンピックに向けて、言い方を変えればインバウンド観光の元年。そんな位置づけも少ししながら、この博覧会全体を、プロデュースしていただくといいいのかなという気がしています。といいますのが、先ほどのコンテンツとコンテクストの話がありましたが、日本人が思いもよらない観光、いわゆる観光資源とは思えないものが観光資源になってきている。こういう例がたくさんあると思います。それは若い人にも言えることで、例えば、ポケモンGOで色々なところに人が来る。こんなことは考えたこともなかった。これが観光だとは思いませんが、そんな例もあるということも踏まえて、コンテンツの洗い出しだけではなくて、これまで考えられないことも含めた、博覧会でありながらシンポジウム的なものとして、将来も考えていく。そういう位置づけも持てばインバウンド関連という都市で行われる博覧会に意義が生まれるのかなと思っています。

津和野としては、観光前面にというのがありがたいなと思っています。ただ、観光については、少し言いにくいこともお話しすると、島根県で1番2番を争う人口減少が未だに進んでいます。平成の合併以前の59市町村で去年までが人口減少率トップでした。一方で、観光客数はほとんど減っておりません。ということは、観光は本当にまちづくりになるのかどうか、ここは大きな重いテーマを持ちながら、津和野町はそれでも観光でやるしかないとやっております。交流人口という言葉が出ていますが、交流人口イコール、言葉がよく見つかりませんが、来ていただくからには、消費をさせていただいて初めて地域経済がまわっていく。それによって定住人口や色々なことが進んでいく。観光はその町、その市、その地域の総合力で初めて成り立つものだという考えが昔からあります。総合力というのは例えば行政しかできないこと、それは道を造ったり、橋を造ったり、そういうことです。観光というソフト的なことでも、総合的なビジョンを形成すること、形成したビジョンを住民の方にコンセンサスをとること、そういうことが観光行

政だと思えます。観光協会は道を作ることはできないですが、それぞれの役割がある。そういう意味でそれぞれのセクション、団体が観光に向けて色々やっていく。そのコンセンサスをつくること、その辺も考えながら地域連携し、行政とも一体をとる。そういうことでは大変素晴らしいことだと思います。やはり観光を全面的に出していただいたことは大変素晴らしいことでありがたいことだと言いながら、新しい視点の観光も要るということと、それから博覧会の位置づけについて、もう少し未来を見据えたビジョンがあるといいなということをおし上げておきたいと思えます。

【委員M】

観光や交流人口は、広域で取り組んだほうが1か所でやるよりかは効果があるということによく分かります。その中で、インバウンドの話もありましたが、東京・大阪だけではなく、田舎の体験、農業体験もしてみたいということがこれからは上位に行くのではないかという話もあります。また、新たな観光資源でスポーツツーリズムがあります。これはマラソン、ジョギング、自転車など、様々なスポーツを体験しながら、イベントを組み合わせた観光というものがこれから益々増えると思っています。その中でも、やはりおもてなしが大事。笑顔、心遣い、親切、これがないといくら観光を頑張っても、もう二度と来ないというような形になるかもしれません。そういう意味でも、おもてなしは大切と思えます。最終的には、定住人口を増やすという話でしたが、そういうことが活発になれば、観光産業は大手企業でなくても、中小企業でも携わるようなことはたくさんあると思えます。

【会長】

ありがとうございました。本日ご出席の方、全員の方からご意見を賜りましたが、まだ他にもございますか。

【委員F】

仕事の内容ですが、今は情報化時代です。山口県の場合、自然災害、地震等があまりありませんので企業の研究所などを誘致することで、定住人口も増えていくと思えます。また医療なら医療関係のものを集積していけば、定住人口が増えてくる。色んな考え方があると思えます。一昨年萩で、花燃ゆ、あるいは世界遺産の登録で、交流人口は倍増しました。しかし、人口は増えません。なかなか交流人口が定住人口に結びつかないということがあります。交通の便の悪いところについては、しっかり情報化時代の情報を使う。例えば新聞のコラムを書いたりする人は、どこでも文章が書けるわけですから、そういうことが出来るような仕事を見つけ出してほしい。そういったことを考えるような仕組みがあれば良いと思えます。以上です。

【会長】

それではまとめに入りたいと思えます。今日はたくさんの貴重なご意見を賜りました。本当にありがとうございました。今回、一つのリーディングプロジェクト

として、案を出させていただいた博覧会ですが、博覧会という言葉が独り歩きしすぎた感じがしています。実は博覧会をすることが目的で出したわけではなく、皆様方からいただいたご意見の中にもたくさんありましたように、人口の大きな減少に歯止めをかけたいという中で、民間の人たちが集まった私達で何ができるのかということです。行政がやるべきこともたくさんあります。先ほどおっしゃられた中で、行政がやるべきこともたくさん含まれていると思います。その中で、ここに集まっているのは民間ですから、民間の人たちが力を合わせて何をするのかということが、ベースになっても良いのではないかと思い、こういう提案をあえてピックアップして出させていただきました。企業誘致や、子どもの育成などは、各市町で取り組んできておられます。そういうことも非常に大事なプロジェクトだと認識しています。しかし、博覧会につきまして、博覧会というよりは地域の資源をもっと皆で見つめ直して、地域の良いものを残していこう。それも今まで単独の市町でやっていたものを、お互いに手を握って情報発信し、この地域に日本の大切なものがこれだけ残っているということを発信できないかというようなことを、この中にまとめたつもりです。前回、日本遺産の話をさせていただきましたが、津和野町は、日本遺産を取られております。また、萩、山口、防府で萩往還、山口市でも大内文化等で取り組む予定がございます。例えば、美祢市、山陽小野田市、宇部市で産業遺産やジオパークなどを絡めた日本遺産など、考えようによっては、様々な形で地域を磨いて、単なる文化財だけでなく、地域の様々な伝統的なもの、産業などを絡めた日本遺産的なものができるのではないかと。そういう日本遺産がまとまってくれば、東京五輪でインバウンド客が日本にたくさん来られ、その方々が日本中を周遊される行き先となります。インバウンドは、かなりの経済効果を生むと聞いています。東京や大阪、首都圏へ行ったお客さんは、次は福岡、広島に行かれます。その次のお客さんが日本の別の地域に出向いていると聞いています。そういった方々にこの地域を目指して来ていただいて、息の長い観光につながっていけば、地域内で経済の動きができ、産業が芽生え、そこで雇用が生まれる。雇用の場があれば、人口流出に少しでも歯止めがかかる。これが今回の大きな背景です。博覧会というと、どうしても華々しさを出してしまいますが、花火を打ち上げるような博覧会という意味ではなくて、この7市町がまとまって一緒に取り組める一つのプロジェクトとして、地域をまとめあげていく、そういう意味での博覧会的なものを5年後の指標として、挙げさせていただいて、それを今回一つの方向性として何とかまとめさせていただきたいと思います。皆さんいかがですか。

【委員D】

人が動かないと産業は動かない。交流人口を増やすことによって、産業を動かす。産業を動かすことによって、少しでも定住人口が増えていけばいい。それが博覧会。言われるように花火を打ち上げるのではなしに、人を動かす手段として賛成したい。

	<p>【会長】 ぜひまとまっていけたらという一つの指標として、今回こういう博覧会的なこともやろうということでぜひお願いしたいと思いますが、ご賛同いただける方は拍手をお願いできますか。</p> <p>【委員】 拍手</p> <p>【会長】 これが究極の目的ではございません。一つの市、町、単独でやるのではなく、必ず協力しあってやろうということでございます。ちょっと強引かもしれませんが。ありがとうございます。今後、この博覧会の一つの目標も含めてこのビジョン懇談会のほうでとりまとめられたということで、今後、各市町の長が集まる協議会への報告させていただきたいと思っております。</p> <p>本日は、たくさんのご意見を賜りまして本当にありがとうございました。</p> <p>5 その他 6 閉会</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第、出席者名簿、関係者名簿、座席表 ・ 資料1 第1回ビジョン懇談会における委員意見 ・ 資料2 山口県央連携都市圏域ビジョン（素案） ・ 参考資料1-1 ビジョン策定に向けたスケジュール（案） ・ 参考資料1-2 山口県央連携都市圏域ビジョン懇談会 意見書 ・ 参考資料1-3 2013長崎さるくキャンペーン 公式ガイドブック
<p>問い合わせ先</p>	<p>総合政策部 企画経営課 TEL 083-934-2747</p>